6月30日大雨を振り返る

6月30日午後、県南は大気の状態が不安定となり、局地的な豪雨に見舞われました。本市にも大きな被害をもたらし、住家の床上浸水や床下浸水、のり面の崩落、冠水による通行止めなどが発生しました。市内でも地域によって被害の発生状況が異なっており、特定の地域に豪雨が集中したものと推測されます。

前沢地域では、丘陵地に接する市街地に被害が集中。出動した消防団員に当時の様子などを伺いました。

◆消防団員インタビュー

分団長
福地 至（いたる） さん
第21分団
（前沢）

旧前沢小学校の脇の水路は、枝などが詰まると水があふれます。この日も詰まりの原因となっていたものを撤去し、民家に被害が出ないように周辺に土のうを作って置きました。

年に何回か道路が隠れるくらいの雨は降りますが、この日は今までに見たことのないような雨の降り方でした。この地区は、斜面に家が建っており、大雨のときは水害のほかに土砂崩れの危険があることを改めて感じました。

近くには保育園もあり、地震だけでなく、土砂災害を想定した訓練も今後考えていかなければならないと思います。大雨は予測できるようになってきました。今回のように外に出るのも危険な大雨の場合は、降る前の避難が必要なときもあるのではないでしょうか。

分団長
小野寺 清喜 さん
第23分団
（前沢古城）

尋常な雨の降り方ではなく、県道新城馬口沢線（旧国道4号）沿いの山側からすごい勢いで水が流れてきて、行き場がない水がたまっていった状態でした。

方面隊長から1人暮らしの高齢者宅で床下浸水発生の連絡があり出動。現場を確認し、土のう15～20袋を作って水の侵入を防ぎました。作業が終わった頃に雨がやんだので、このときは避難しませんでしたが、もっと降り続くようであれば避難してもらいました。

2、3時間で膝下までである長靴が隠れるほどの水かさでした。入団してから約18年経ちますが、水害での避難は経験がありません。いつ災害が発生するか分からないような気候になり、日頃の備えの重要性を感じています。

団員
佐藤 好輝（よしてる） さん
第23分団第4部
（前沢古城）

雲の流れが数分で変わるような天気で、一気に雨が降りました。川はあと30㌢くらいであふれてしまうような状況で、もしあふれればもっと被害が大きくなったでしょう。

土曜日で出掛けていましたが、店の中に入るときはそれほど強くありませんでしたが、店を出る頃は帰れるのかと思うような雨になっていました。その辺りがハザードマップで危険な地域にあるのか分からず、自宅以外での危険区域の把握は課題だと感じました。

自分の地域に出されている警報は、テレビやラジオなどで情報を入手することが大切。自治の防災組織が先頭に立って動く枠組みをもっと大切にしていくことが必要ではないかと思います。

ハザードマップを目立つ所に置く

奥州市ハザードマップは、水沢地区版、江刺地区版、前沢・胆沢・衣川地区版の３種類です

◆頻発する大雨災害

平成26年8月豪雨（広島土砂災害）、27年9月関東・東北豪雨、29年7月九州北部豪雨、30年6月西日本豪雨。近年、日本のあちこちで起こる水害や土砂災害。6月30日には前沢を中心にゲリラ豪雨が発生し、多くの被害が出ました。今年は去年より早いペースで台風が発生し、記録的短時間大雨情報が出るような、局地的でこれまでに経験したことのないような大雨が降ることも特徴と言えます。地球温暖化による気候変動の影響により、豪雨災害の危険性が高まっています。

◆避難情報の収集は自ら行う

28年8月の台風10号による水害では、岩泉町の高齢者施設において「避難準備情報」の意味するところが伝わらず甚大な被害が発生しました。災害時には、的確な情報収集が大切です。市が出す避難情報には状況によって違いがあります（表1）。避難情報が発令されなくても、危険を感じたら速やかに避難を開始しましょう。

■表１　避難情報の種類

緊急度	避難情報	求められる行動
高 ↑	避難指示（緊急）	避難中の人は確実に避難を完了してください。避難していない人は直ちに安全な場所へ避難を始めてください。
	避難勧告	できるだけ早く安全な場所に立ち退き避難をしてください。
	避難準備・高齢者等避難開始	高齢者、体の不自由な人など避難に時間のかかる人は支援者と共に安全な場所へ早めの避難を始めてください。

※必ずしも下から順番に発令されるとは限りません

〈避難情報の発信手段〉

緊急速報メール、テレビ、ラジオ、コミュニティFM、ケーブルテレビ、市ホームページ、ツイッター、フェイスブックなど

◆奥州市ハザードマップ

市では、30年3月に「奥州市ハザードマップ」を作成し、全戸配布しました。安全に避難するために必要となる、北上川の浸水想定区域や土砂災害の危険な箇所、避難所の情報などを掲載しています。ほかにも、大雨時の行動、避難行動、土砂災害対策、洪水災害対策、風水害対策、地震対策などの情報ページがあります。災害に対する備えとして、ご活用ください。

※ハザードマップとは

台風や集中豪雨などによって河川が増水し、堤防の決壊や崖崩れ、土石流、地滑りなどの水害、土砂災害における危険箇所を周知することで、被害を少なくしようと作成された地図です。